

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503106		
法人名	株式会社 フロイデプランニング		
事業所名	グループホームけあふる (もみじ)		
所在地	札幌市南区藤野3条4丁目13-2		
自己評価作成日	平成22年11月22日	評価結果市町村受理日	平成23年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当、グループホームは、四季の移り変わりを五感で感じられる自然豊かな環境に位置しています。福祉に情熱を持っている運営者と、何よりも「人が大好き」な職員が、理念に沿って日々ケアサービスを実践しています。地域の方々にホームへの理解を深める工夫を図って前進している「グループホームけあふる」です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503106&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、「尊厳・自立・自由」の理念を基本に、人として人間らしく生きることの支援に努力しています。職員は、ケアプランにもとづいて、利用者の自立に向けた段階的なサービス内容を設定し、着実に一步一步実践を積み重ねて支援し、ケアプランの目標達成に取り組んでいます。又、日常業務が効率よく整備されていて、車椅子使用者が多い中、職員は、落ち着いた態度で、利用者を敬う気持ちを大切にされた対応をしています。利用者の状況や行動パターンをしっかり把握し、職員同士の連携がスムーズで、利用者も安心して穏やかに過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝、夕の申し送り、カンファレンス等で職員の気づきを集約、検討し介護計画に反映させている。また、家族からの意見や要望を聞き利用者本位の介護計画を作成出来る様に努めている。	「尊厳・自立・自由」の理念を掲げ、職員は、利用者を敬う気持ちを大切に介護し、自立に向けたケアプランを作成して、地域生活での継続支援に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃、まつり等の参加は出来る限り参加する様に努めている。また、ホームの催しに地域の方々に参加して頂けるよう、一軒ずつ訪問しチラシを手渡しで配布している。	管理者は町内会総会に出席し、職員も年2回の町内清掃に参加しています。利用者は散歩やホーム行事(夏祭り・七夕・花火大会)で、地域住民の方々との交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域での独居の高齢者が多い事を知り、民生委員の方に独居の方々に「けあふる」を紹介して頂き、訪問して頂けるように声掛けを依頼している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見や情報をユニット会議で話し合い、サービスの向上に努める。また、メンバー構成も従来のメンバー以外に町内の班長や保安部長にも会議への参加を依頼している。	今年度は、2ヵ月毎に運営推進会議を定期開催しています。ビデオに録った避難訓練の様子を見て意見交換をし、地域の協力体制について検討しています。又、認知症についての勉強会を開催し、行事報告などで意見交換をしています。	運営推進会議は順調に開催されていますが、地域密着型のグループホームの機能と役割に対する理解を深めて頂く為にも、従来のメンバーに加え、地域の他の関係者に参加依頼をし、更に、ホームのサービス向上に活かすことを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の会議や公的機関などの連携を常にとり、サービスの向上に努める。また、運営者も常に行政担当窓口を訪れ、情報の交換を行っている。	管理者は、市・区の管理者会議の役員を務めており、市・区の担当者とは、協力関係を深めています。又、独居の男性高齢者を対象とした講演もしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介護で、どの様な行為が抑制になるのかを折に触れ、話し合い理解している。また、日中は玄関の施錠はせず、夜間のみ職員が1名である為、防犯上の観点から玄関は施錠をする。	職員は、拘束・虐待に関する研修を受講し、「身体・言葉・ドラッグ」による拘束についての理解を十分にしており、日常の介護場面でも、常に意識した対応を心がけ、職員同士で確認し合っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会があり、事業所内で虐待が見過ごされる事のない様に、注意を払い防止に努める。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、青年後見制度を活用している利用者がいて支援している。また、外部で行われている権利擁護の研修会に出来るだけ、全スタッフが参加する様にしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に疑問などが残らないように、わかりやすい言葉で何度でも理解して頂けるまで説明をしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から質問や意見、不満など聞いた際にはユニットカンファレンス等で話し合い、運営に反映させている。	家族の訪問時以外にも、電話報告、利用者のケアプランやスナップ写真、暮らしぶりを記載した個人向け便りを送付して、意見要望を伺い運営に反映しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕の申し送り、カンファレンス等で職員の意見や提案を聞き、話し合う機会を設け、その意見や提案を反映させている。	法人代表は、全職員との個人面談を実施し意見要望を聞いています。又、管理者は日頃から職員の状況把握に心がけ、相談しやすい関係やストレス解消に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にリーダー会議を持ち、各ユニットの状況の把握、職員の介護技術や知識等の向上、習得の為の話し合いも行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は外部研修や講習会等の参加の機会を設け研修等で得た情報は「研修記録」を作成し全スタッフが閲覧出来る様にしている。また、社内研修で介護技術の向上を目的とする研修会も実施している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流を持ち、情報交換をしている。また、機会がある事に同業の管理者と交流を図り情報交換しサービスの質の向上に努める。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに、本人が困っていること、不安なこと、要望等、本人自身から良く聴き、グループホームで出来る事、出来ない事を十分説明し納得して頂くよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内の雰囲気を見学して頂き、家族等が困っている事、不安なこと、要望等良く聴き、グループホームで出来る事、出来ない事を十分説明し納得して頂くよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が「今、どんなサービスをして欲しいのか」を良く聴き、他のサービス利用も含めた柔軟な対応をする様に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付け、食事の下拵え(皮むき等)を手伝って頂いたり、洗濯物を畳んで頂いたり、出来る事をスタッフと一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望を聞くだけでなく、支援する上でスタッフから提案させて頂いたり、共に考え、本人を支えていく為の関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係が途切れないように、近況報告や行事の案内をさせて頂いている。また、馴染みの人が気軽に遊びに来て頂けるような環境作りに努めている。	利用者の自宅近所の方が、隔月で来訪したり、又、クリスチャンの方が、シスターの訪問を受けたり、趣味活動などが、何時でも出来るよう準備する等、利用者一人ひとりについての継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように、居室で過ごす事の多い利用者には、声掛けをしてホールや食堂へ誘い、ゲームをしたり、食堂で歌を唄ったり、利用者同士が関わり合い、支え合えるような環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族等から問い合わせや相談等があった場合は出来る限り対応するように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや要望、意向の把握に努め、「その人らしい暮らし」が営める様に支援している。	アセスメント用紙は、3ヵ月毎に更新して利用者の全体像を把握し、思いを十分受け止められるよう支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に入居前の生活状況や馴染みの場所等を聞いて把握に努める。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方を常に把握するよう努める。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝、夕の申し送り、カンファレンス等で職員の気づきを集約、検討し介護計画に反映させている。また、家族からの意見や要望を聞き利用者本位の介護計画を作成出来る様に努めている。	計画のサービス内容は、確実に着実に実施出来るように段階を踏んで設定して実施の有無を毎日チェックし、詳細なモニタリングを活かした介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別の介護記録に記入し、情報を職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望等に応じて、通院介助や買い物の付き添い等、その時々々のニーズに対応出来る様に柔軟な支援が行えるよう努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、民生委員や地域包括センター等の方々に意見や協力をして頂きながら支援を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の医療機関との連携、週一回の往診医師や訪問看護の実施や認知症専門医に受診し、スタッフが相談したり利用者が認知症に関する治療や診察を受けている。	ほとんどの利用者が、入居前からのかかりつけ医を継続受診し、職員が通院支援をしています。利用者や家族の希望があった場合は、協力医療機関に変更しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や非常勤看護師に相談しながら、利用者の健康管理に努めたり医療機関の活用等の支援も行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、安心して過ごせる様、また、出来るだけ早期に退院出来るよう病院側関係者と連携を密にして良好な関係作りを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における対応の指針は作成しており、体調の変化に伴い、利用者家族、医師を交えて今後の対応、方針について慎重な取り組みをしている。十分話し合いよりよい支援を行う。	入居時に重度化に関する対応指針を説明して同意書を交わし、全職員で方針を共有し、出来る限りの支援に取り組んでいます。終末期に至った場合は、家族の意向を伺っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が救急救命講習を受けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力のもと、夜間想定避難訓練を実施している。訓練の際地域の方々に実情を知ってもらう為訓練に参加して頂くよう、案内状を配布した。	消防署協力の下、昼夜想定で1・2階の全利用者の避難訓練を実施しています。夜間想定自主訓練も毎月実施し、効率良く安全に確実な避難策を工夫しています。	火災による昼夜想定避難訓練後は、全職員でビデオを見て課題の改善に取り組んでいます。更に、繰り返しの訓練の積み重ねと、あらゆる災害を想定した訓練、地域の協力体制の整備などの取り組みを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴、生活習慣を理解し、プライドを傷つけない様な言葉使いや接し方に努める。	管理者や職員は、利用者の尊厳を一番大切にして敬う気持ちを常に意識した言葉かけに努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の「何気ない一言」や「しぐさ」の中から、利用者が何をしたいのか、どのような気持ちなのかを汲み取り満足の出来る生活が営めるように支援する。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりの声に耳を傾けて会話を大切にしている。その日の状態や要望に合わせ、出来る限り「その人らしい暮らし」が営める様な支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度本人の希望を聞いて理美容師に訪問してもらい好みの髪型にする。入浴等に髭剃りを介助、支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は一緒に食卓につき会話を楽しみながら食事をしている。食事形態が違う利用者には、ミキサー食を提供し介助をしながら一緒に食事をする。	食事中は、クリスマスソングや演歌などの音楽を聴きながら、会話を弾ませています。なるべく自力で摂取できるように、補助具を使用する等の工夫をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量のチェック表を活用し一日を通じての水分、食事の摂取量を確認出来る様にしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に歯磨きを促している。自分で出来ない利用者は、職員が口腔ケアを介助している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を毎日記入し、排泄パターンを見つけ適宜トイレ誘導を行い、便座に座り排泄が出来るよう支援している。	職員は、排泄パターンの把握や時間毎のトイレ誘導でオムツを減らす排泄支援をしています。段階を踏んだ着実な支援によって、オムツ使用から布パンツに自立しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に水分摂取や食物繊維を多く含まれている食材をメニューに反映し摂取出来る様に努める。時には内服薬を医師から処方して貰う事もある。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合や曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施している。利用者の要望や健康状態に応じて入浴対応をしている。特殊浴の設備が整っており、車椅子利用者の方も浴槽に入ってもらえる。	車椅子使用の利用者も浴槽に入っ、ゆっくり寛げるように浴室にリフトを設置しています。又、利用者の希望により、毎日シャワー浴をしている方もいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣やその時の状況に応じて、午睡を促したり、日中の活動を活発にし、夜間安心して眠れるように支援する。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬の説明書をファイリングして症状の変化が見られたときは、ファイルを再確認しホームドクターや主治医に相談し対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握し食後の後片付け、新聞折やお茶のバック詰等利用者が得意にしてる事をさりげなく見守り支援する。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほとんどの利用者が車椅子使用の為天気のよい日は、ホーム前庭でバーベキューやお茶会を楽しみ、気分転換が出来るように支援している。	車椅子で利用者数名づつ、近所の散歩をして、景色を眺めたり庭の花を觀賞して、外気浴をしています。毎月、利用者全員での外出行事もあり、初詣・鯉のぼり見学・さくらんぼ狩り、ランチに出かけています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金を所持している事は無いが、外出行事の際、小遣いを持って行き、本人の好きな物を買っていただける様に支援する。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙が書ける様にレターセットを用意したり、利用者の希望があれば電話が出来るように支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内で馴染みの曲を流したり、温度や採光は互換刺激への配慮に心掛けて、利用者が居心地の良い共用空間の中でゆったり暮らせるように工夫している。	ホーム内は全館床暖房を設置し、快適に過ごせるように、事務室で温度の設定や管理をしています。ツリーやクリスマスグッズを壁に飾り、季節や祝い行事毎に雰囲気を感じられるように、利用者と一緒に飾りつけをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で利用者同士がトラブルにならない様に、一人ひとりの居場所を常に把握し思い思いに過ごせる様な居場所の工夫をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室に使い慣れた家具や趣味の物等を持ち込んで頂き利用者が安心して暮らせるように配慮している。	居室も床暖房を設置し、馴染みの物を配置しています。利用者によっては、危険防止のため、様々な工夫をして居心地良く安全に過ごせるように支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子で自走しやすい様に廊下やトイレを広く作っている。混乱、失敗をした時にはさり気なく声掛けし安心感を持って頂けるように努める。			